

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物探究	単位	2	単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	3	年	1組
使用教科書	生物基礎（数研出版）					
使用副教材	大学入学共通テスト対策チェック&演習生物基礎（数研出版） 共通テスト対策実力完成直前演習（Benesse）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業を通して、基本的な概念や基本的な知識を体系的に理解すべく、板書および口頭での説明によく耳を傾けるように務めてください。また、理解の定着を図るために基本的な演習問題から取り組みましょう。後半は、模擬試験や共通テストの過去問を本番の共通テストと同じ時間で解いて、実践力を養います。

(2) 家庭

授業で学んだこと、解いた演習問題を復習してください。基本的な知識は、重要な図表に関連付けながら覚えるといいです。また、模擬試験問題の見直しや新聞やニュースでの最新情報の収集などで、さらなる理解を深めておきましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	(1) 生物の特徴 生物の特徴について、その特徴、遺伝子とその働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 (2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について、神経系と内分泌系による調節、免疫を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 (3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について、植生と遷移、生態系とその保全を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。また、生態系の保全の重要性について認識している。	(1) 生物の特徴 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 (2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。 (3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物の環境との関係性を見いだして表現する。	(1) 生物の特徴 生物の特徴に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 (2) ヒトの体の調節 ヒトの体の調節に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 (3) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期テスト 小テスト	定期テスト 小テスト	課題の提出状況 授業での取り組み

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1学期	4月	第1編 生物の特徴	1 生物の特徴	●	●	●
	5月	第1回考査	2 遺伝子とのはたらき	●	●	●
		第2編 ヒトの体内環境の維持	3 神経系と内分泌系による調節	●	●	●
	6月	第2回考査	4 免疫のはたらき	●	●	●
2学期	7月	第3編 生物の多様性と生態系	5 植生の多様性と分布	●	●	●
	8月					
	9月	第3回考査	6 生態系とその保全	●	●	●
	10月	共通テスト対策実践演習	直前演習（Benesse） 10回分	●	●	●
	11月		直前演習（駿台文庫） 5回分	●	●	●
3学期	12月		直前演習（河合塾） 5回分	●	●	●
	1月	共通テスト	共通テスト過去問（4年間）	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物探究		単位	2	単位
対象コース	総合	コース	対象クラス	3	年	2・3組文系	
使用教科書	新編生物基礎（数研出版）						
使用副教材	チェック＆演習生物基礎（数研出版）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業を通して基本的な概念や知識を体系的に理解すべく、板書や口頭での説明に傾聴するよう努めてください。また、理解の定着を確認するため基本的な演習問題に取り組みましょう。

(2) 家庭

授業で説明した問題を復習しましょう。知識を重要な図表と関連付けながら覚え、模擬試験の問題の見直しや新聞・ニュースでの最新情報の収集でさらなる理解を深めましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	[演習] 生物学における基本的な概念、原理・法則などについて体系的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	[演習] 生物や生物現象に関して、科学的に関係性を見いだして表現している。	[演習] 生物や生物現象に対する関心を高め、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査 提出物	定期考査 提出物	提出物 授業観察

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4・5	[リードα生物基礎]				
		3. ヒトの体内環境の維持	・各分野における基礎用語や標準的な知識問題、頻出の実験問題を理解し、図やグラフを読み解く問題を通して、思考力を養う。 	●	●	●
	6	4. 生物の多様性と生態系	＜第1回考査＞    			
		＜第2回考査＞				
2	7	[大学入学共通テスト対策 チェック&演習生物基礎]	・各分野における基礎用語や基本的な知識問題、頻出の実験問題を理解し、会話文形式の問題や実験を題材にした考察問題、図やグラフを読み解く問題を通して、思考力を養う。	●	●	●
	8	1. 生物の特徴				
	9	2. 遺伝子とそのはたらき				
	10	3. ヒトの体内環境の維持				
	11	4. 生物の多様性と生態系				
3	12～1	* 総合演習、実践問題				
		＜第3回考査＞				
		* 実践問題 用語チェック				

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物探究	単位	2	単位
対象コース	総合	コース	対象クラス	3	年	4組文系
使用教科書	新編生物基礎（数研出版）					
使用副教材	ビーライン生物基礎（第一学習社）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業を通して基本的な概念や知識を体系的に理解すべく、板書や口頭での説明に傾聴するよう努めてください。また、理解の定着を確認するため基本的な演習問題に取り組みましょう。

(2) 家庭

授業で説明した問題を復習しましょう。知識を重要な図表と関連付けながら覚え、模擬試験の問題の見直しや新聞・ニュースでの最新情報の収集でさらなる理解を深めましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	[演習] 生物学における基本的な概念、原理・法則などについて体系的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	[演習] 生物や生物現象に関して、科学的に関係性を見いだして表現している。	[演習] 生物や生物現象に対する関心を高め、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査 提出物	定期考査 提出物	提出物 授業観察

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容		知	思	主
1	4・5	[大学共通テスト攻略問題集 ビーライン生物基礎] 1. 生物の特徴 ＜第1回考査＞	・ 各分野における基礎用語や基本的な知識問題、頻出の実験問題を理解し、会話文形式の問題や実験を題材にした考察問題、図やグラフを読み解く問題を通して、思考力を養う。		●	●	●
	6・7	2. 遺伝子とそのはたらき ＜第2回考査＞					
2	8～10	3. ヒトの体内環境の維持 ＜第3回考査＞					
3	11～1	4. 生物の多様性と生態系 ＜第4回考査＞ * 予想模擬テスト 用語チェック	   				

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物		単位	5	単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	3	年	1組	
使用教科書	生物（数研出版）						
使用副教材	リードα生物基礎＋生物（数研出版） 大学入学共通テスト対策チェック＆演習生物（数研出版）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業を通して、基本的な概念や基本的な知識を体系的に理解すべく、板書および口頭での説明によく耳を傾けるよう努めて下さい。また、理解の定着を図るために基本的な演習問題に取り組みましょう。テストとは、模擬試験や共通テストの過去問を本番の共通テストと々時間で解いて実践力を養います。 (2) 家庭 授業で学んだこと、解いた演習問題を復習して下さい。基本的な知識は、重要な図表に関連づけながら覚えるといいです。また、模擬試験問題の見直しや新聞やニュースでの最新情報の収集などで、さらなる理解を深めておきましょう。	

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 （内容のまとめごと）	5編 生態と環境 生態と環境について、個体群の構造と性質、個体群内の個体間の関係、異なる種の個体群間の関係、生態系の物質生産と物質循環について理解しているとともに、それらを観察、実験などに関する技能を身に付けている。	5編 生態と環境 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生物群集と生態系についての関係性を見いだして表現する。	5編 生態と環境 生態系と環境について主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期テスト	定期テスト	課題の提出状況 授業中に行う振り返り課題

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	
1	4	第5編 生態と環境					
		第7章 生物群集と生態系					
		 	1 個体群の構造と性質 2 個体群内の個体間の関係 3 異なる種の個体群間の関係 4 生態系の物質生産と物質循環 5 生態系と人間生活		●	●	●
	5		第1回考査		●	●	●
		《大学入学共通テスト対策 チェック＆演習生物》					
	6	第1編 生物の進化	1 生物の進化と遺伝子の変化 2 進化のしくみと生物の系統		●	●	●
2		第2編 生命現象と物質	3 細胞と分子 4 代謝		●	●	●
			第2回考査				
	7	第3編 遺伝情報の発現と遺伝子	5 遺伝情報の発現調節 6 発生と遺伝子発現		●	●	●
	8 9		第3回考査		●	●	●
	10	第4編 生物の環境応答	7 動物の反応と行動 8 植物の環境応答		●	●	●
	11				●	●	●
3	12	第5編 生態と環境	9 生物群集と生態系	 	●	●	●
			第4回考査				
	1	共通テスト					
	2	二次試験対策					
	3	二次試験対策					

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物	単位	5 単位
対象コース	進学	コース	対象クラス	3 年	2・3組理系
使用教科書	生物（数研出版）				
使用副教材	リードα生物基礎＋生物（数研出版）、チェック&演習生物（数研出版）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業を通して基本的な概念や知識を体系的に理解すべく、板書や口頭での説明に傾聴するよう努めてください。また、理解の定着を確認するため基本的な演習問題に取り組みましょう。

(2) 家庭

授業で説明した問題を復習しましょう。知識を重要な図表と関連付けながら覚え、模擬試験の問題の見直しや新聞・ニュースでの最新情報の収集でさらなる理解を深めましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境について、個体群と生物群集、生態系を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 [演習] 生物学における基本的な概念、原理・法則などについて体系的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現している。 [演習] 生物や生物現象に関して、科学的に関係性を見いだして表現している。	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境を科学的に探究しようとしている。 [演習] 生物や生物現象に対する関心を高め、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査 提出物	定期考査 提出物	提出物 授業観察

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	
1	4	第5編 生態と環境 第7章生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質	・ 個体群の成長に個体群密度が影響していること、生存曲線の型は年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 ・ 同種の動物が集まって生じる利益と不利益、個体群内の個体どうしの関係を理解する ・ 生態系は異なる生物種の個体群で構成され、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 ・ 生物群集の中で様々な生物種が共存できる仕組みを理解する。 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに  13 気候変動に 具体的な対策を  14 海の豊かさを 守ろう  15 陸の豊かさも 守ろう  道徳 <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td>	●	●	●	
	5	2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 ＜第1回考査＞		●	●	●	
	6	[大学共通テスト対策 チェック&演習 生物] 1. 生物の進化と遺伝子の変化		・ 各分野における基礎用語や基本的な知識問題、頻出の実験問題を理解し、会話文形式の問題や実験を題材にした考察問題、図やグラフを読み解く問題を通して、思考力を養う。	●	●	●
	7	2. 進化のしくみと生物の系統 ＜第2回考査＞					
		3. 細胞と分子					
	2	8					
		9		5. 遺伝情報の発現調節 6. 発生と遺伝子発現 ＜第3回考査＞			
		10		7. 動物の反応と行動			
		11		8. 植物の環境応答 ＜第4回考査＞			
	3	12・1		9. 生物群集と生態系 * 総合演習、実践演習			

1 この科目の構成について

教科	理科	科目	生物	単位	4	単位
対象コース	総合	コース	対象クラス	3	年	5・6組理系
使用教科書	生物（数研出版）					
使用副教材	リードα生物基礎＋生物（数研出版）、ビーライン生物基礎（第一学習社）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業を通して基本的な概念や知識を体系的に理解すべく、板書や口頭での説明に傾聴するよう努めてください。また、理解の定着を確認するため基本的な演習問題に取り組みましょう。

(2) 家庭

授業で説明した問題を復習しましょう。知識を重要な図表と関連付けながら覚え、模擬試験の問題の見直しや新聞・ニュースでの最新情報の収集でさらなる理解を深めましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境について、個体群と生物群集、生態系を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 [演習] 生物学における基本的な概念、原理・法則などについて体系的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現している。 [演習] 生物や生物現象に関して、科学的に関係性を見いだして表現している。	[教科書] (5) 生態と環境 生態と環境を科学的に探究しようとしている。 [演習] 生物や生物現象に対する関心を高め、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査 提出物	定期考査 提出物	提出物 授業観察

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第5編 生態と環境 第7章生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質	・ 個体群の成長に個体群密度が影響していること、生存曲線の型は年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 ・ 同種の動物が集まって生じる利益と不利益、個体群内の個体どうしの関係を理解する ・ 生態系は異なる生物種の個体群で構成され、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 ・ 生物群集の中で様々な生物種が共存できる仕組みを理解する。 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に 具体的な対策を 14 海の豊かさを 守ろう 15 陸の豊かさも 守ろう 道徳 <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td>	●	●	●
	5	2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 ＜第1回考査＞		●	●	●
	6・7	[大学共通テスト攻略問題集 ビーライン生物基礎] 1. 生物の特徴 ＜第2回考査＞		●	●	●
	8・9	2. 遺伝子とそのはたらき ＜第3回考査＞				
2	10・11	3. ヒトの体内環境の維持 ＜第4回考査＞				
	12・1	4. 生物の多様性と生態系 * 予想模擬テスト、用語チェック				